

# 令和4年度 学校総合評価

## 富山県立となみ総合支援学校

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の教育目標「自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる」の達成を目指すとともに、本校の現状と課題を踏まえ、以下の3項目を重点課題として取り組んだ。それぞれ設定した目標については、ほぼ達成することができた。

#### (1) 適切な挨拶や言葉遣いの指導

中学部に関わる教職員全員で、機会を捉えて挨拶や言葉遣いの指導に取り組んだ。生徒一人一人に応じたスモールステップの目標設定や他の生徒や教職員から肯定的に評価される雰囲気づくりにより、挨拶や丁寧な言葉遣いのスキルが向上したと実感できた生徒が多く見られ、学校だけでなく家庭においても主体的な挨拶や他者の気持ちを理解する行動が見られるようになった。

#### (2) 進路支援の取組を進めるための障害福祉サービスに関する情報提供の工夫

昨年度作成した『障害福祉サービス事業所一覧（以下「事業所一覧」）』に、事業所の所在地が分かる地図や就労継続支援事業B型事業所の紹介ページ（基本情報・生徒や保護者が知りたい情報・事業所の方からのメッセージを掲載）を追加した。より詳しく新しい情報や事業所との位置関係を分かりやすく示すことができ、生徒一人一人の進路希望、居住地等に合わせた情報を、分かりやすく伝えることができた。

#### (3) 校内支援の充実

特別支援教育コーディネーターが中心となり、主訴に応じた進め方、情報整理の仕方、支援方法の検討の仕方等を示しながらケース会議を進行した。また、コーディネーター会や教育相談部会でケース会議について情報共有したり校内支援の状況を共有したりして、様々なケースに活用し、校内支援を充実させることができた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 挨拶や言葉遣いの指導を通じて、社会生活においても良好な人間関係を築けるよう、丁寧な振る舞いや相手を思いやる気持ちなど他者との関わりを深める学びを展開していきたい。併せて、生徒がその必要性を感じながら、自ら実践できる環境づくりに学部全体で努めていきたい。
- (2) 一人一人の児童生徒が主体的に進路選択でき、地域で自立していけるように見やすくより分かりやすい進路先の情報提供を継続していきたい。具体的には、新たに砺波圏域の生活介護事業所や新規の障害福祉事業所等の情報を地図とあわせて掲載し、事業所一覧の充実を図るとともに、より多くの学年で使用できるような活用方法を検討していきたい。また、実際に保護者が障害福祉サービス事業所スタッフと直接対話できる機会の設定を検討していきたい。
- (3) 継続的に特別支援教育コーディネーターや教育相談部員が、学部（学年）主任と連携を図りながら、児童生徒が学びやすい環境となるよう、積極的かつ計画的にケース会議等を実施できる校内支援体制を整える。また、引き続き、特別支援教育に必要な知識や情報を共有し、各教員の資質向上が図られるよう研究・修養の環境づくりに努めていきたい。

8 学校アクションプラン（重点課題）

令和4年度 学校アクションプラン - 1 -																
重点項目	学習活動															
重点課題	適切な挨拶や言葉遣いの指導															
現 状	<p>中学部では昨年度から適切な挨拶についての指導に取り組んでいる。朝の挨拶について年間を通して指導を行った結果、生徒の多くからは相手や場に応じて望ましい態度で自ら挨拶できるようになった、教員からは挨拶の場面だけでなく日常生活の対人面において良い影響がたくさんみられたとの感想が聞かれた。これを受けて、今年度も、引き続き挨拶や言葉遣いについて指導を行い、挨拶の習慣の定着を図るとともに、中学生として他者との望ましい関わり方を身に付けることのきっかけとしたいと考え、本テーマを設定した。</p>															
達成目標	<p>適切な挨拶や言葉遣いを身に付けるための指導の実践</p> <p>年間4回以上</p>															
方 策	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年生</th> <th>2、3年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td colspan="2">・挨拶や言葉遣いについての事前アンケートの実施</td> </tr> <tr> <td>1学期</td> <td>・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導</td> <td>・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導と個に応じた目標の設定</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>・個に応じた目標の設定と日常生活での実践とチェック</td> <td>・日常生活での実践とチェック ・適宜目標の見直しを行う。</td> </tr> <tr> <td>12月上旬</td> <td colspan="2">・挨拶や言葉遣いについての事後アンケートの実施</td> </tr> </tbody> </table>		1年生	2、3年生	5月	・挨拶や言葉遣いについての事前アンケートの実施		1学期	・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導	・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導と個に応じた目標の設定	2学期	・個に応じた目標の設定と日常生活での実践とチェック	・日常生活での実践とチェック ・適宜目標の見直しを行う。	12月上旬	・挨拶や言葉遣いについての事後アンケートの実施	
		1年生	2、3年生													
	5月	・挨拶や言葉遣いについての事前アンケートの実施														
	1学期	・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導	・適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての学習指導と個に応じた目標の設定													
2学期	・個に応じた目標の設定と日常生活での実践とチェック	・日常生活での実践とチェック ・適宜目標の見直しを行う。														
12月上旬	・挨拶や言葉遣いについての事後アンケートの実施															
達成度	<p>6月...事前アンケートの実施、個に応じた目標の設定</p> <p>6～7月、9月～12月...各学級 月1～2回程度 計6回以上</p> <p>12月...事後アンケートの実施、スキルが向上した生徒の割合80%以上（自己評価）</p>															
具体的な取組状況	<p>&lt;6月&gt;</p> <p>生徒に挨拶や言葉遣い、生活態度についてのアンケートを実施した。その上で、適切な挨拶や言葉遣いの必要性と具体例についての指導を行った。</p> <p>&lt;6月～7月、9～12月&gt;</p> <p>学級での指導（月1～2回程度）や学部全体での指導（関わる教員が機会毎に指導）、各自が向上させたいスキルを段階別に明示した「挨拶・言葉遣いスキルのランク表（以下、ランク表）」を使った目標設定と自己評価の繰り返しの状況を設定した。また、各段階の最高の目標「達人（Aランク）」を達成できた場合には、別のスキルにも挑戦するように促し、同じ手続きで適宜ランクアップできるようにした。</p> <p>&lt;12月&gt;</p> <p>6月に実施したアンケートを再度行い、挨拶や言葉遣いについての意識や行動の変化を自己評価できるようにした。また、ランク表に基づいてランクアップした生徒には「ランクアップ賞」、「達人（Aランク）」を達成した生徒には「認定証」を担任から手渡し、生徒が意欲的にさらに継続して取り組んでいけるようにした。</p>															
評 価	<p>A</p> <p>スモールステップで目標を設定できるようにしたことや自己の変容が分かりやすいランク表を作成し、共有スペースに掲示したことで、他の生徒や教職員から肯定的に評価される雰囲気生まれたことなどにより、挨拶や丁寧な言葉遣いのスキルが向上したと実感できた生徒が全体の約80%に上り、学校だけでなく家庭においても良い行動が見られるようになった。</p>															
学校関係者の意見	<p>挨拶はコミュニケーションの基礎である。心を豊かにすることにつながり、将来の社会生活に向けての宝となる。発語の少ない生徒にとっての挨拶のありかたも考えていることも大切なことである。この取組に日常的に学校全体で取り組んでいることは大変良い。また、生徒が主体的に取り組んでいることは素晴らしい。</p>															
次年度への課題	<p>今年度の取組をとおして、他者との望ましい関わり方を身に付けることができたとともに、周囲の人への不適切な関わりが減少したように思われた。今後、社会生活において良好な人間関係を築けるよう、他のスキル（丁寧な振る舞いや相手を思いやる気持ちなど）を生徒と一緒に考えながら取り組んでいきたい。併せて、生徒がその必要性を感じながら、自ら実践できる環境づくりに学部全体で努めていきたい。</p>															

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路指導	
重点課題	進路支援の取組を進めるための福祉サービスに関する情報提供の工夫	
現 状	進路支援部では、地域の福祉サービス事業所に関する情報提供を行い、生徒や保護者が進路について具体的に考えるための資料として『障害福祉サービス事業所一覧（以下「事業所一覧」）』の作成を取上げた。今年度はその2年目となる。事業所の所在地が一目でわかる障害福祉サービス事業所マップと、障害福祉事業所紹介ページ（基本情報・生徒や保護者が知りたい情報・事業所の方からのメッセージを掲載）を作成することとし、昨年度は、A型事業所・就労移行支援事業所を取り上げた。紹介ページは事業所の協力を得られたことから、今までより詳しく新しい情報を生徒や保護者に提供することができた。また、マップに示すことで、居住地と事業所等との位置関係が分かりやすくなるとの声が聞かれた。今年度はB型事業所を加えて、それぞれの実態や進路希望、居住地等に合わせた情報を、生徒、保護者に分かりやすく伝えるため、「事業所一覧」のよりよい活用方法を考えていく。	
達成目標	就労継続支援B型事業所の情報収集及びその紹介ページの作成	障害福祉サービス事業所一覧の効果的な活用例や改善点等収集のためのアンケートの実施
	砺波圏域の就労継続支援B型事業所10箇所以上の掲載	年間3回以上
方 策	4月～7月中旬	・各地域にあるB型事業所の情報収集と紹介ページを作成する。 ・アンケートの具体的な項目や実施方法について話し合う。
	7月下旬～1月	・前期進路保護者会（7月）、前期保護者会（10月）、後期進路保護者会（12月）の各懇談後にアンケートを実施し、集計結果を分析、改善点について話し合う。
	2月～3月	・進路報告会で、「事業所一覧」の効果的な活用方法を紹介する。 ・3年目に向けて、「事業所一覧」の改善点を明確にし、見直しを行う。
	達成度	・砺波圏域の全てのB型事業所（16か所）の情報を収集し、紹介ページを作成した。 ・「事業所一覧」の改善点や活用例等収集のためのアンケート（保護者、担任対象）を4回実施し、計52名から回答があり、事業所等の情報とマップの位置情報を合わせて見られることで、居住地を中心とした進路検討に有効であることが明確になった。
具体的な取組状況	4月～7月中旬	・砺波圏域にある16のB型事業所、新規A型事業所について、各事業所から情報を収集して紹介ページを作成し、「事業所一覧」に新たに付け加えた。 ・アンケートの具体的な項目（分かりやすさやもっと知りたい情報、見学してみたい事業所等）を話し合い、アンケートを作成した。前期進路保護者会で1回目のアンケートを実施した。
	7月下旬～1月	・1回目のアンケート結果を受け、分かりやすい箇所やその理由を選択する等、アンケートの項目を再考。8月の進路学習会で2回目、10月の前期保護者会で3回目、12月の後期進路保護者会で4回目のアンケートを実施した。 ・アンケートの集計結果を分析し、改善点や効果的な活用方法について話し合った。
	2月～3月	・3年目に向けて改善点を明確にし、次年度の作成計画の見直しを行った。 ・進路報告会（教員対象）で「事業所一覧」の効果的な活用方法を紹介する。
評 価	A	「事業所一覧」にB型事業所16か所、新規開設のA型事業所1か所について情報収集し、紹介ページを作成したこと、「事業所一覧」の改善点やより効果的な活用を考えるためのアンケートを4回実施し、居住地を中心とした進路先の分かりやすい情報提供の継続が求められているとの知見が得られ次につなげることができた。
学校関係者の意見	丁寧な情報収集し、地図情報も取り込み、生徒や保護者が分かりやすいようにまとめられていて、卒業後の進路先を考える取り掛かりに有効である。卒業後の地域での自立を考えると、どんなところでどんな仕事がしたいのかということが大事だが、そのときの大きな手掛かりになると思う。この他、実際に保護者が障害福祉サービス事業所スタッフに直接話ができる機会があるとよい。	
次年度への課題	アンケートの結果、保護者からは大変分かりやすい、地図が見やすいなどの感想が聞かれた。また、「事業所一覧」を読んで就業体験先を決めたり、休み時間に自主的に見てメモをとったりする生徒の姿も見られた。進路選択において、生徒や保護者により分かりやすく情報を提供できたと考えられる。今後は、掲載内容の改善、残る生活介護事業所の紹介ページの作成と、より多くの学年で使用できるような効果的な活用方法を考えていきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	その他	
重点課題	校内支援の充実	
現 状	<p>令和3年度は、地域及び校内支援の充実を図るために、校内で特別支援教育に関する研修会を行い、特別支援教育コーディネーターや教育相談部員を中心に、教育相談や校内支援に必要な知識や情報を共有してきた。</p> <p>今年度は、引き続き、校内へ特別支援教育に関する知識や情報を提供していく。さらに、特別支援教育コーディネーターや教育相談部員が、学部（学年）主任と連携を図り、校内の児童生徒に関する困り事や授業の改善などへの解決策を提案し、校内支援の充実に努めたい。各学部のケース会議や校内支援委員会、サポート会議等での支援の提案や情報整理を行うことに加え、日頃の授業や学級運営などで役立つ具体的な支援を直接的に提供していきたい。</p> <p>校内支援を充実させることで、教員の支援力や校内全体の支援力が向上し、地域支援の充実にもつながると考える。</p>	
達成目標	校内の児童生徒に関する相談の対応や職員への支援に関する情報提供の実施	
	年間3ケース以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制の現状を把握するため、アンケートを実施する。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや教育相談部員は身近な職員に声を掛け、児童生徒に関する悩みや困りごとはないか、情報を収集するよう努める。また、常に学部（学年）主任と連携を図り、児童生徒の様子や学びに関する情報を学部（学年）主任から得ながら必要に応じて声を掛けるなど、気軽に相談できる環境づくりを推進する。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターが、各学年のケース会議に参加して情報の整理や支援の提案をする。</li> <li>・コーディネーター会や教育相談部会で報告し情報を共有する。</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターが各学部の状況を確認し、ケース会議が必要と思われる児童生徒の有無を把握し、ケース会議の開催を勧めた。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや教育相談部員がケース会議に参加し、進行や記録を担った。主訴に応じて進め方を工夫し、情報の整理や支援方法の検討を行った。また、コーディネーター会や教育相談部会でケース会議について報告し、校内支援の状況を共有したり、ケース会議の進め方を学ぶ資質向上の機会としたりした。</li> </ul>	
評 価	A	特別支援教育コーディネーターや教育相談部員が小・中・高等部の7件のケース会議に参加した。ケース会議での実態の整理や支援方針の共有により、児童生徒に関わる教員がより一貫した支援を行えるようになり、児童生徒が落ち着いて過ごす姿が見られるようになった。多くの教員が児童生徒に合ったより適切な支援ができるようになった。
学校関係者の意見	<p>ケース会議は、問題解決を急がず、子供に寄り添いながら、できる限り環境を整えていくことをねらって行うことが大切である。ケース会議により、子供の特性を理解することで、小学部、中学部、高等部、社会へと支援を引き継ぐことが可能になると思われる。教職員全体で情報を共有することで、間違った対応を防止するという意味でもよい取組である。ケース会議をすることが当たり前になるよう、継続していくことが望まれる。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>ケース会議の実施により、実態が整理できた、実態や支援方法を共有できたという意見が多く聞かれ、ケース会議で、児童生徒の支援や指導について、現状を見直したり新たな視点で考えたりしたことは有効であったと思われる。一方で、ほとんどのケース会議で1時間前後の時間を要したという課題が残った。時間配分や経過などの見通しもって、ケース会議を実施することが必要であった。</p> <p>今後も、児童生徒の様子や学びに関する情報を得るため、特別支援教育コーディネーターや教育相談部員が、学部（学年）主任と連携を図りながら、児童生徒が学びやすい環境となるよう、積極的かつ計画的にケース会議等を実施する校内支援体制を築けるよう努めていきたい。また、引き続き、特別支援教育に必要な知識や情報を共有し、各教員の資質向上が図られるよう努めていきたい。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状指示 D：現状より悪くなった)